

1. 目的

こどもたち一人ひとりが、学びの基盤となる言語能力や読解力、情報活用能力及び問題発見・解決能力等を向上させ、これからの予測困難な社会を生き抜く力を着実につける。

2. 調査概要

(1) 調査日 令和8年4月22日(水)～4月30日(木)

(2) 対象学年 小学校 第5・6学年

(3) 調査内容

第5学年：国語・算数・理科・教科横断型問題(わくわく問題)・アンケート

第6学年：理科・教科横断型問題(わくわく問題)・アンケート

※調査問題等は大阪府教育庁HPに掲載されています。

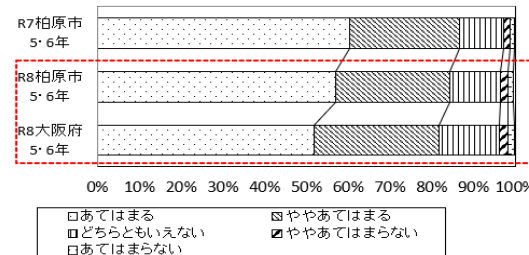
調査問題 https://www.pref.osaka.lg.jp/o180080/shochugakko/sukusuku/r8_monndai.html

結果概要 r08sukusukukekkagaiyou.pdf

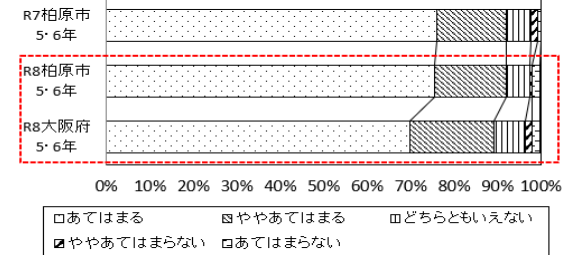
③児童アンケートの回答状況(5・6年全体)

〇強みのみられる項目(大阪府との比較)

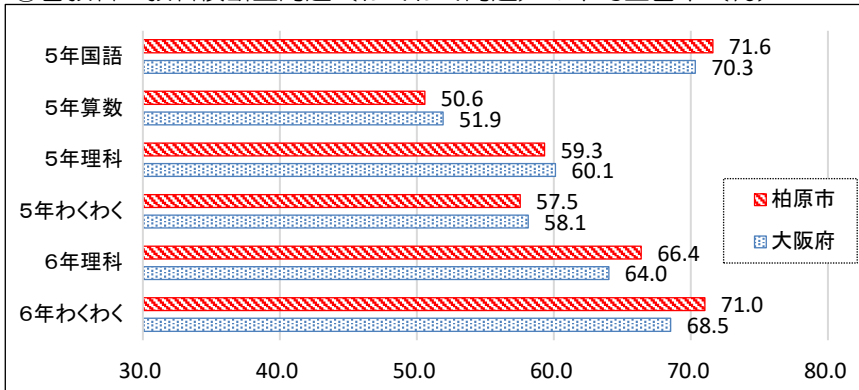
あなたの学級は、協力的である。



自分は何が得意で何が苦手かをわかっている

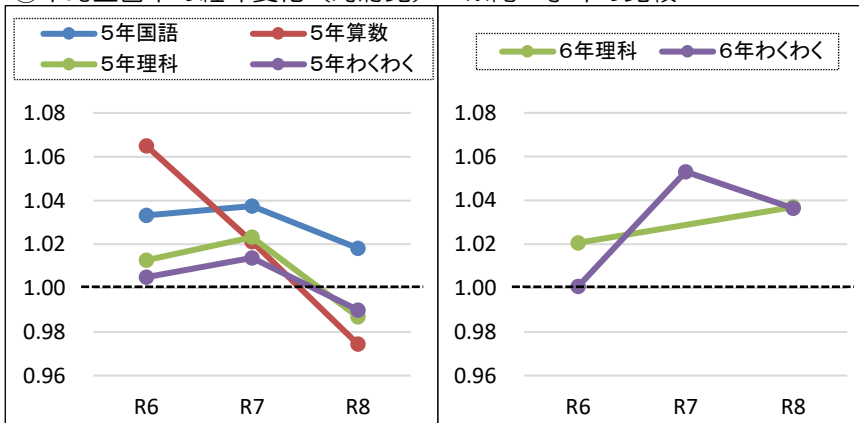


①各教科・教科横断型問題(わくわく問題)の平均正答率(%)



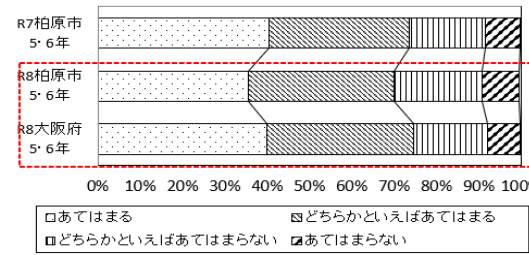
②平均正答率の経年変化(対府比)

※同一学年の比較

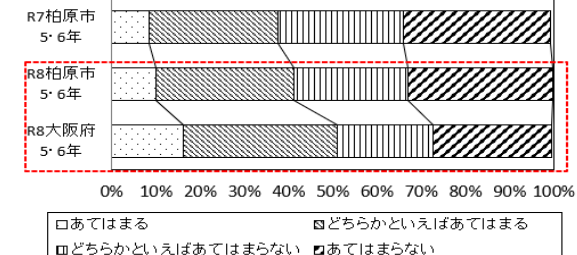


▼課題のみられる項目(大阪府との比較)

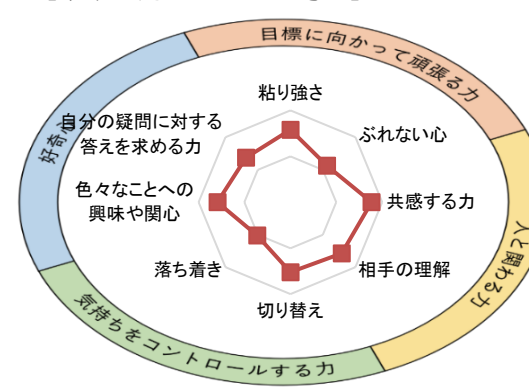
先生や友だちが話していることで、大事だと思ったことをノート等にも書いている



読んでいてわからなくなったときは、もう一度読み直してみる



【未来に向かう力と好奇心】



※未来に向かう力(大阪府教育庁)

非認知能力について、「目標に向かって頑張る力」、「人と関わる力」、「気持ちをコントロールする力」の3つを「未来に向かう力」として定義されています。

詳細な結果を記載した参考資料は市HPに掲載しています。

https://www.city.kashiwara.lg.jp/docs/2021110900019/file_contents/file_2026109517502_1.pdf

《結果概要》

平均正答率より

5年生では、国語以外の教科で府の平均を下回っています。6年生では府の平均を上回っています。

アンケートより

目標に向かって頑張る力や、いろいろな事への興味関心は高い一方、大事なことを考えながらノートを書いたり、読書時間の短さには課題がみられます。読書時間が長いと回答した人は、各教科の正答率も高い傾向にあります。

《引き続きご家庭にお願いすること》

- ①基本的な生活習慣の定着
- ②家庭学習の時間の確保・読書の推進